

令和8年度～令和17年度
さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画（3期）

伊江島

策定主体：伊江村さとうきび増産プロジェクト会議

地域において目指す姿

・伊江島は、令和6/7年現在において、60歳以上の生産者が全体の80%を超え高齢化が著しく進んでいる状況である。次の10年間では高齢化による離農から生産者の人数はさらに大きく減少することが予想される。一方、伊江島では葉タバコやかんしょなど土地利用型の品目も多く、これらの品目には土壌伝染性病害の問題もあることから輪作が広く行われており、さとうきびも輪作体系の重要な1品目として位置付けられている。そのため、さとうきびの栽培面積が急激に減少することは無いと考えられる。今後は相対的に1経営体あたりの経営面積が増加することが予想されるため、より効率的な栽培体系や機械化による作業労力の軽減が求められる。

・令和6/7年までの直近5年間の生産量の平均は6,245tであり、単収の平均は7.29tである。前期計画の中で取り組んだ堆肥等を活用した地力増進、病害虫対策、作型や収穫体系に合わせた品種の選択等を進めた結果、生産量および単収の増加がみられる。今後は限られた生産者で生産量を確保しなければならず、単収は6.8tを目標とし、生産量は5,750tを目標とする。

増産計画目標

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
R6年度策定時	54	0	35	89	8.4	0	6.1	7.5	4,550	0	2,145	6,695	
R8年度	目標	60	0	25	85	7.5	0	5	6.8	4,500	0	1,250	5,750
R9年度	目標	60	0	25	85	7.5	0	5	6.8	4,500	0	1,250	5,750
R10年度	目標	60	0	25	85	7.5	0	5	6.8	4,500	0	1,250	5,750
R17年度	目標	60	0	25	85	7.5	0	5	6.8	4,500	0	1,250	5,750

(2) 担い手育成目標

	区分	認定農業者			受託組織		大規模生産農家 [※]
		3	4	4	1	1	
R6年度策定時		3	4	4	1	-	
R8年度	目標	4	4	4	1	-	
R9年度	目標	4	4	4	1	1	
R10年度	目標	5	4	4	2	1	
R17年度	目標	10	4	4	2	3	

※作付け面積3ha以上の生産農家

(3) その他地域で独自に設定する目標

R6年度策定時	-	-	-	-
R8年度	目標	-	-	-
R9年度	目標	-	-	-
R10年度	目標	-	-	-
R17年度	目標	-	-	-

(4) 分析と評価

① 2期計画で挙げた課題

- ・認定農業者や受託組織の育成
- ・農業保険制度の加入率
- ・夏植え株出し体系への移行
- ・ハーベスタの導入による機械収穫の推進
- ・肥培管理技術の向上および堆肥等の土づくりへの利用促進
- ・適期肥培管理（株出し管理作業、かん水作業）の指導、体制整備
- ・機械収穫に適して品種の選定および普及
- ・病害虫の適期防除

② ①で挙げた課題に対して解決に向け取り組んだ内容

- ・認定農業者や受託組織の育成
認定農業者への誘導を行った。また認定農業者および担い手への農地集積を図った。受託組織については、JA製糖工場への支援にとどまった。
- ・農業保険制度の加入率
農業保険制度の周知や説明会を通じて加入促進に務めた。また、収入保険の農家掛け金の一部を伊江村が補助した。
- ・夏植え株出し体系への移行
株出し栽培向け品種の選定の他、株出し栽培の講習会などを実施した。
- ・ハーベスタの導入による機械収穫の推進
事業導入により平成30年に2台、令和4年度に1台小型ハーベスタを導入した。
- ・肥培管理技術の向上および堆肥等の土づくりへの利用促進
肥培管理に関する講習会の実施や土壌分析の実施、伊江村においては堆肥利用に対する補助を行った。
- ・適期肥培管理（株出し管理作業、かん水作業）の指導、体制整備
株出し管理作業およびかん水作業の指導および講習会等を実施した。
- ・機械収穫に適した品種の選定および普及
機械収穫向けの品種としてNi22を選定、栽培の推進を行った。
- ・病害虫の適期防除
4月の一斉防除、8月の土壌散布薬剤による共同防除を製糖工場主導で実施した。

③ ①で挙げた課題のうち②により解決した課題

- ・夏植え株出し体系への移行
- ・ハーベスタの導入による機械収穫の推進
- ・肥培管理技術の向上および堆肥等の土づくりへの利用促進
- ・機械収穫に適した品種の選定および普及
- ・病害虫の適期防除

④ ①で挙げた課題のうち解決できなかった課題とその要因

- ・認定農業者や受託組織の育成
さとうきび専作農家は認定農業者志向が薄く認定に繋がらなかった。農地の利用集積は認定農業者を含む担い手に広く支援した。
受託組織はJA製糖工場による収穫の受託と植付の幹旋にとどまり、新たな受託組織の育成に繋がらなかった。村内にはさとうきび生産法人や機械装備の充実した大規模生産者がおらず受託の受け皿が無い。
- ・農業保険制度の加入率
畑作物共済や収入保険の加入促進に努めたが、加入率の増加は限定的であった。
- ・適期肥培管理（株出管理作業、かん水作業）の指導、体制整備
島内には複合型株出管理機が未導入であり、収穫後の管理は葉ガラの除去、条施肥など限定的であり、体系的な株出管理が不十分である。

⑤ 新たに生じた課題

- ・働き方改革により工場の勤務体制、雇用人数が大きく変わったため、作業リーダーの育成や季節労働者の確保に苦慮している。
- ・高齢化による労働力不足、1経営体の経営面積の増加が想定され、さらなる生産の効率化の必要がある。複合型株出管理機およびビレットプランターの導入の検討が必要である。

⑥ 令和17年産目標に向けた現状評価及び見通し

・さとうきびは島内では重要な輸作品目のため栽培面積の大きな減少はなく、漸減と予想される。しかしながら、さとうきび生産者の多くは60代以上のことを踏まえると生産者数は現在の約150名から減少していくことが考えられる。必然的に1経営体当たりの経営面積が増加し、農地の集約化や栽培管理の効率化が求められる。現状では単収および生産量ともに他産地に比べ高い状況であり、JAを中心とした受託組織の充実化や地力増進の取り組みなどを継続することにより、令和17年産目標を達成する見通しである。

(5) 地域重点事項（地域独自で取り組んでいる重点事項を記載）

- ・地域において害虫を効果的に防除するには生産者それぞれが防除するのではなく、地域一体となって期間や対象害虫を設定して防除する必要がある。伊江村では伊江村およびJAが200万円ずつ補助を出し、4月の一斉防除（メイチュウ類およびバッタ類対策：製糖工場により全面薬剤散布）と8月および11月の薬剤配布による共同防除（ヤソ害、土壌害虫：生産者による防除）を実施している。

(6) 以下の項目のうち重要（特に議論するべき）と考える項目を3つ程度選択して✓を入れて下さい。

1 経営基盤の強化

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 農業共済制度への加入促進 |

2 生産基盤の強化

- | | |
|-------------------------------------|----------------|
| <input type="checkbox"/> | 気象災害に強い生産基盤の整備 |
| <input type="checkbox"/> | 機械化一貫体系の確立 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 地力の増進 |

3 技術対策

- | | |
|-------------------------------------|------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | 病虫害防除 |
| <input type="checkbox"/> | 台風・干ばつ対策 |
| <input type="checkbox"/> | 優良品種の選択・普及 |

4 その他（自由記述）

※✓した項目については、OPの「～～」を作成する

目標達成に向けた取組計画

I 経営基盤の強化

① 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

【現状】

・伊江村のさとうきびの収穫面積は、平成23年に現在の含蜜糖工場を建てる際に他地域の含蜜糖工場の黒糖販売を圧迫しないよう、関係機関間の協定で上限を90haと設定されている。近年は作付面積は90haを上回っており、収穫面積は80ha台を推移している。

・令和7年2月に伊江村地域計画が策定されており、認定農業者をはじめとした担い手に農地の利用集積を支援している。さとうきび生産者は専作が少なく葉タバコ、かんしょ、露地野菜など多様な品目との複合経営がほとんどである。複合経営のためさとうきびに充てられる面積は比較的小さく大規模な生産者はごくわずかである。

・島内に受託組織は製糖工場しかなく、受託できる作業はハーベスタによる機械収穫のみとなっている。今後効率的なさとうきび経営を図る上で受託組織の充実（株出管理作業、機械植付作業、防除作業）が必須と考えられる。

・労働力の確保について、ハーベスタオペレーターの高齢化が進み、新たなオペレーターの確保育成が急務である。また、働き方改革により製糖工場の運用が3班2交代制へ変更となっており、班ごとのリーダーの育成確保に苦慮している。

【課題】

- ・新たな受託組織の育成と受託内容の充実
- ・1戸当たりの経営面積の拡大に伴う、管理作業の機械化や受託体制の整備
- ・工場の労働力の確保およびオペレーターの育成

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・植付機械および複合型株出管理機の導入（製糖工場、伊江村）
- ・新たな受託組織の検討（生産組合、製糖工場、伊江村、普及）
- ・季節労働者およびオペレーターの確保、育成（製糖工場）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・島内外からの製糖期間労働者の募集、経験者を含むリーダーの育成
- ・今後の受託体制の構築にむけた関係機関間での検討

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・受託組織の育成
- ・島内での機械化一貫体系の確立に向けて株出管理機、ビレットプラント等の事業導入

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

I 経営基盤の強化

② 農業保険の加入促進

【現状】

・R6/7年期現在の加入状況は畑作物共済52戸（加入率37.9%）、収入保険制度14戸（加入率70%）となっている。気象災害等の被害が少ない年が継続すると加入率が下がる傾向にある。伊江島は比較的平坦で台風被害を受けやすい地形であるため、継続して農業保険の必要性の周知と加入促進活動の実施が必要。

・農業共済や収入保険への加入促進活動として、生産組合総会での農業共済組合による説明、製糖工場や伊江村からのパンフレットの配布等を実施している。

・収入保険については、伊江村が令和6年度から3年間生産者掛け金の6分の1の補助を行っている。

<畑作物共済加入状況>

項目	R1	R6
有資格者数（人）	122	137
共済加入戸数(率)	69 (54.18%)	52 (37.9%)
引受面積(率)	36.3ha (54.20%)	32ha (40.40%)
支払金額（千円）	361千円	2,499千円

<収入保険制度加入状況>

項目	R6
加入戸数（戸）	14
引受面積（ha）	22.1 ha
面積加入率（%）	17%

【課題】

- ・災害等のリスクに対応する農業保険への理解が不十分で加入率が低い。
- ・収入保険制度は青色申告が要件となるが、青色申告をしている有資格者が少ない。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・畑作物共済、収入保険の制度説明、加入への誘導（農業共済組合、製糖工場、伊江村）
- ・農業簿記講座への誘導、青色申告への誘導（製糖工場、伊江村）
- ・収入保険の掛金の補助（伊江村）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・生産者の集まる生産組合の総会、薬剤の配布時等を活用して説明会の実施
- ・村広報誌等による農業保険制度の周知
- ・農業簿記講座への誘導、青色申告の支援

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・3年間程度の実施状況の確認と加入率増加へ向けた取組みの効果の判定

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイディア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

① 気象災害に強い生産基盤の整備

【現状】

- ・ 国営地下ダムを利用し農地へ水を供給している。しかし一部通水していない地域もある。

< 農業基盤整備の状況 >

- ① 土地基盤整備 : 100%
- ② 畑地灌漑整備 : 65%
- ③ 水源整備 : 100%
- ④ 農地防風林 : 75%

※R6年度実績見込み

【課題】

- ・台風等の被害を最小限にとどめるための農地防風林、保安林の整備を行うため関係機関と連携する必要がある。
- ・干ばつの被害に対応するため、水源及び畑地かんがい設備の活用

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・農地防風林等の整備を実施（伊江村）
- ・かんがい設備の整備事業を実施（伊江村）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・現在、行われている畑地かんがい整備を計画的に推進する
- ・毎年防風林の日にあわせて、植樹祭を開催し普及推進に努める

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・関係機関と連携し引き続き基盤整備に取り組んでいく

<基盤整備事業の計画>

地区名	工事概要	予定工期
伊江東部	畑かん施設126.7ha	H24～R8
ミースイ・唐小堀	畑かん施設64.4ha	H29～R9
真謝・真西	畑かん施設84.8 ha	H30～R9
伊江西部	畑かん施設91.1ha	R2～R11

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

② 機械化一貫体系の確立

【現状】

- ・さとうきび生産者の高齢化が進んでおり、収穫や植付作業以外の管理作業等も機械化を行いさとうきび栽培を一貫して効率的に機械を利用して行える体系の実現が急務である。
- ・植付作業は生産者個人による2節苗プランターでの植え付けが主流である。植付前に苗の選別をしっかりと行えるため初期の欠株が非常に少ないメリットがある。また植付班と呼ばれる植付作業を受託する個人グループが2班存在し、苗の用意込みで植付を請け負っている。今後はより効率的な植え付けが行えるビレットプランターの導入が想定されるが、現行の2節苗プランターでの非常に少ない欠株率が維持できている間は導入の時期を慎重に判断する必要がある。
- ・収穫作業は小型ハーベスターを平成30年に2台（伊江村導入、JAが指定管理）、令和4年度に1台（JAが導入）を事業導入しており、計3台で収穫作業を請け負っている。令和6/7年期現在で収穫面積の85%が機械収穫が占めている。しかしながらハーベスタオペレーターおよび補助員が高齢化しており、前計画時からオペレーターの計画的な確保および育成が課題である。
- ・作型の3割程度が株出となっているが、収穫後の株出管理は複合型株出管理機が導入されておらず、株出し管理作業が不十分である。
- ・作業受託は製糖工場による機械収穫および個人での植付作業に留まる。さとうきび生産法人や各種作業機械を保有する大規模生産者もいないため受託組織の育成や充実が急務である。製糖工場も人員不足となっているため地域の受託組織のあり方を検討する必要がある。

< 農業機械等の稼働状況 >

単位：%

項目	稼働	稼働	稼働	稼働
	台数	面積率	台数	面積率
	令和元年度		令和6年度	
ハーベスタ	3	54.7%	3(3)	85%
株出管理機	—	—	—	—
プランタ	—	—	—	—
ベビー脱葉機	10	11.9%	0(20)	0%

※ハーベスタ（）は保有台数

【課題】

- ・高齢化やさとうきび専作の生産者の減少が予想されるため、作業を受託する組織の育成や受託作業の充実が必要。
- ・ハーベスタオペレーターをはじめとした受託作業を担うオペレーターの育成
- ・株出管理機の導入による機械化
- ・将来的な地域での作業受託組織のあり方や運営方法の検討

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・オペレーターの確保および育成、研修等への誘導（生産組合、製糖工場）
- ・株出し管理機の導入の検討（伊江村、製糖工場）
- ・作業受託組織のあり方の検討（生産組合、伊江村、製糖工場、普及）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃の実施する予定の取組を記載

- ・オペレーター研修等への誘導
- ・受託作業組織の在り方の検討

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・受託作業を請け負う組織の在り方や運営
- ・島内で見導入の株出し管理機やビレットプランターなどの導入の必要性の検討
- ・ハーベスターなどの修繕や更新の計画の作成

<さとうきび機械稼働目標（R12）>

項目	稼働	稼働
	台数	面積率
ハーベスター	3(3)	85.0%
株出管理機	1	20.0%
ビレットプランタ	1	20.0%

※ハーベスタ（）は保有台数

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイディア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

③ 地力の増進

【現状】

- ・伊江村ではさとうきびは葉タバコ、かんしょ、島らっきょう等とあわせて重要な輪作品目と位置付けられており、他品目との輪作による地力の維持に努めている。
- ・伊江村堆肥センターでは村内の畜産農家から出る牛糞を活用し、安価で生産者に堆肥を提供している。堆肥の販売から運搬、散布まで堆肥センターが請け負っており、さとうきびほ場での堆肥利用も多い。堆肥センター所有の散布機では場内への堆肥散布が可能なことから新植に限らず株出しでも堆肥利用が増えている。
- ・施肥設計を含めた土づくりに対する指導が十分でなく、生産者個人の判断に任されている。生産組合に対し、土づくりの講習や土壌分析の指導が必要と考えられる。

【課題】

- ・ さとうきび栽培における土づくりや施肥設計等の指導を行う必要がある。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ さとうきびにおける土づくりや施肥設計の講習会の実施（製糖工場、普及）
- ・ 村による土壌分析への誘導および実施（伊江村）
- ・ 堆肥センターによる堆肥の提供、運搬および散布の請負（伊江村）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 普及による講習会の実施（土づくり、施肥設計）
- ・ 村による土壌分析への誘導

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ バガス、トラッシュ等、島内で調達可能な未利用有機物の利用の検討

【自由記述欄】 ※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

① 病虫害防除

【現状】

- ・病害ではNi9などの黒穂病に感受性の高い品種が多くの割合を示していた時代には問題となっていたが、黒穂病に抵抗性のある品種への転換が進んだことから現在は黒穂病の発生は少なく推移している。
- ・虫害はイネヨトウやカンシャシクイハマキなどのメイチュウ類のほか、カンシャコバネナガカメムシ（ガイダー）が見られる。また、干ばつが続く年にタイワンツチイナゴやトノサマバッタなどのバッタ類が大発生することがある。
- ・伊江村とJA伊江支店の補助をもとに年1回4月ごろにメイチュウ類やガイダーの一斉防除のほか、8月および11月に土壤散布の薬剤およびヤソ剤を配布を行い、地域での共同防除を行っている。

【課題】

- ・種苗伝染性の病害に対する意識が低く、優良種苗を活用した種苗更新が少ない。
- ・バッタ類の防除は幼虫に対しての効果が高いが、初期の発生の確認が十分ではなく防除適期を逃している。
- ・適用範囲の広い薬剤を利用した春先の一斉防除の実施。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・優良種苗を活用した種苗更新（生産組合、製糖工場）
- ・病虫害発生予察情報の利用や巡回でのバッタ類の発生確認、初期防除の徹底（生産組合、製糖工場、普及）

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃を実施する予定の取組を記載

- ・種苗管理センター由来の種苗を活用した種苗更新の推進。種苗更新の必要性の周知と種苗配布申し込みの説明会の実施。
- ・バッタ類やメイチュウ類を対象とした薬剤を選定し、春先の一斉防除を実施する。

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・優良種苗の村内での増効率的な増殖や生産者に負担の無い配布のシステムの検討
- ・一斉防除の対象害虫の検討や実施方法の効果検証

【自由記述欄】 ※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

② 台風・干ばつ対策

【現状】

- ・早い時期の台風により折損の想定されるNi27が主要品種としまっているが、被害の最も多い春植の作付けはない。収穫後の早期管理により初期生育を促すことで被害軽減を図っている。他の品種についても耐倒伏性の低い品種は風当たりの強い地域には作付けしない、培土の適期を逃さないなどの指導を行い被害の最小化に努めている。
- ・梅雨明け後の干ばつに備えて、土地改良区によるスプリンクラーの貸し出しや製糖工場による灌水車（5 t、10 t）の貸し出しを行っている。また、近年では事例は少ないが島らっきょうやかんしょ栽培で利用されるかん水チューブのさとうきびへの転用がみられる。
- ・かん水による増収効果、干ばつ時のかん水の必要性の資料提供や講習会での指導を行っているが、かん水を実施する生産者は限定的である。生育中期から後期にかけてはスプリンクラーの設置やかん水チューブへの敷設、かん水車でのかん水はいずれも重労働であり、地域にあった効率的な方法の検討が必要である。
- ・台風や強風での被害軽減のため防風林帯の整備、水源の確保として地下ダムの建設、ほ場への給水栓の設置が進められている。

【課題】

- ・ 干ばつ時における生産者によるかん水の実施
- ・ かん水車を使用する際大型免許が必要なため、貸し出し実績が少ない。
- ・ 継続した台風対策の指導

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ かん水による増収効果や干ばつ時の被害軽減等の周知、台風対策等の指導（製糖工場、普及）
- ・ 干ばつ時のかん水手段の提供（製糖工場）
- ・ 防風林等の整備（伊江村）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 生産組合総会や共同防除の薬剤配布を活用した、かん水や台風対策の栽培管理についての資料の提供
- ・ 講習会の実施
- ・ スプリンクラーおよびかん水車の貸し出し

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 生産者が継続可能であり効率的なかん水手段の検討
- ・ かん水の受託の検討あるいは運転手の確保

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

③ 優良品種の選択・普及

【現状】

- ・伊江村ではこれまでの分蜜糖工場から平成23年度に含蜜糖工場となった。黒糖製造に合った品種を検討し栽培を行ってきた。当初はNi25、Ni9、NiF8を主要品種としていたが、Ni9での黒穂病の発生や後継品種の台頭から品種の転換が進み、令和6年時点ではNi22（51%）、Ni27（25%）、KY99-176（7%）が主要品種となっている。
- ・当地域のさとうきび栽培体系は夏植え株出し体系で、収穫面積の約85%がハーベスタによる機械収穫、また年内に操業を開始するため、品種に求められる特性は多収性のほか、早期高糖性、株出し萌芽性、株出し多収性が優れていることが求められる。
- ・作付けが単一の品種に偏ると品種の多様性が無くなり、特定の病虫害や気象災害により大きな被害を被る可能性があり、リスクが高い。そのため、上述の特性を持つ品種を3品種程度を主要品種とし、3品種の割合を同程度で合計8割を目標としている。
- ・新しい品種の導入や品種構成の適正化の取組は「さとうきび優良種苗安定確保事業」による種苗管理センター由来の優良種苗の配布を活用し、種苗の更新とあわせて計画的に行っている。

< 品種別作付割合の推移 >

単位：%

	Ni9	Ni15	Ni22	NiH25	Ni27	KY99-176	RK97-14	その他
H30	4	1.5	2	1.9	77.7	8.3		
R元		2.5	15.9	4	68.5			
R2	0.76	2.24	20.21	6.61	46.78	1.96		
R3			34.7	6.8	46	3.8	6.1	2.6
R4		1.63	51.21	6.38	33.48	3.07	4.23	
R5		0.32	54.23	9.95	25.43	6.17	3.9	
R6			51.18	2.64	25.41	7.21	2.31	0.24

【課題】

- ・地域での主要品種を3品種程度でバランス良く合計8割という目標があるが一部の品種に偏りがある
- ・栽培体系や収穫方法など生産者それぞれのさとうきび経営に即した生産者単位での品種の選択

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・有望品種の試験栽培（製糖工場）
- ・さとうきび優良種苗安定確保事業による種苗導入（伊江村、製糖工場）
- ・品種特性および品種特性に応じた栽培に関する講習（生産組合、普及）
- ・伊江村における適正な品種構成の検討（生産組合、製糖工場、伊江村、普及）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃を実施する予定の取組を記載

- ・次期有望品種に選定しているNi29の伊江村における試験栽培
- ・品種ごとの特性や栽培方法の資料提供や講習会の実施
- ・適正な品種および構成割合の検討および目標の設定

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・生産者および関係機関の協議による品種構成の検討および長期的な更新計画の作成
- ・目標とする品種構成への取組の実施状況の把握と計画の修正

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア要望等

—

重点課題における関係者の役割分担と実施状況 ※令和7年度に3期目計画を立てる際は、右側の「今年度の具体的な取組計画」のみ記入。

重点項目： 農業共済制度への加入促進

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
伊江村					収入保険制度の掛け金補助 広報誌での制度周知	広報誌掲載（1回）により加 入率の向上を目指す
普及 センター					巡回指導に合わせて説明資料 を配布する。	農業保険制度の周知を図る。
JA伊江支店 製糖工場					農業保健制度の説明会の設定	関係機関と調整し、説明会を 設定する。
さとうきび 生産組合					農業保険制度の説明会への積 極的な参加	説明会への参加（20名）を 目指す。
農業共済組合					農業保険制度の説明会	説明会（1回）を実施し、生 産者の理解を深める。

重点項目： 地力の増進

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
伊江村					さとうきび生産者への土壌分 析への誘導	土壌分析3件以上
普及 センター					施肥設計や土づくりに関する 講習会の実施	講習会の開催1回
JA伊江支店 製糖工場					生産組合総会や薬剤配布時等 を活用した資料の提供	資料の提供1回
さとうきび 生産組合					講習会への参加、新たな土づ くり・施肥設計の取組み	講習会の参加20名
伊江村 堆肥センター					堆肥の販売、運搬・散布作業 の請負	さとうきびほ場への散布 10件

重点項目： 病虫害防除

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
伊江村					生産者負担軽減のため薬剤購 入費の補助	補助の実施
普及 センター					病虫害予察情報や巡回での発 生状況の把握、注意喚起	定期的な発生情報の共有（4 回/年）
JA伊江支店 製糖工場					生産者負担軽減のため薬剤購 入費の補助、一斉防除の実施	補助の実施、発生害虫に合わ せた薬剤の選択
さとうきび 生産組合					適期の共同防除の実施	適期の薬剤散布
					-	-

(参考情報①)

1. 県(島)の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

伊江島は島の中央東に海拔172mの城山がそびえる以外はほぼ平坦な島である。土壌は琉球石灰岩を母岩とした島尻マーゼであり弱アルカリ性を示し、肥沃と保水力に乏しい。農業が盛んな島であり、葉タバコ、花卉、畜産(肉用牛繁殖)、島らっきょう、冬瓜、かんしょなどの栽培が盛んである。さとうきびは輪作品目の一つとして重要な位置付けである。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状	令和6/7年期現在、さとうきび生産者151名、総収穫面積88.99ha(夏植:53.98ha、株出:35.01ha)、生産量6,694t(夏植:4,549t、株出2,144t)単位当たり収量平均7.52t(夏植:8.42t、株出:6.12t)
-------	---

【近年の作物別作付面積の動向】

(1) 作物別作付け面積の動向

	耕地面積	作付面積	耕作放棄地	さとうきび	花卉	葉たばこ	果樹	野菜	飼料作物	その他
H17	1,222	1,001	-	75.5	81.3	326.5	1.7	68.4	397	51.1
H18	1,229	1,146	-	18.8	75.6	326.5	1.5	63.8	417	137.5
H19	1,290	1,089	-	177	80.1	307.6	2.0	52.3	426	45.3
H20	1,231	1,066	-	178	82.2	291.1	2.0	49.5	426	37.7
H21	1,231	1,058	-	171	81.3	291.1	2.2	52.3	412	49.7
H22	1,231	1,023	-	162	84.8	266.4	2.0	47.1	412	47.8
H23	1,231	933	-	127	86.8	225.9	1.9	39.5	416	35.3
H24	1,231	931	-	129	88	223.5	1.1	31.9	428	30.3
H25	1,231	884	-	127	85.7	223.5	1.5	33.2	395	18.3
H26	1,231	909	-	143	92	221.3	1.8	38.1	394	18.5
H27	1,231	913	-	166	95.4	213.1	1.6	28.6	398	9.3
H28	1,231	900	3.5	165	94.5	213.1	0.9	30.5	382	14.2
H29	1,231	905	1.8	147	91.2	212.9	0.9	29.2	398	20.2
H30	1,231	898	-	139	94.2	210.4	1.0	33.3	408	12.5
R元	1,080	890	-	123	89.6	197	3	57.1	386	33.6
R2	1,080	855	-	133	81	187.9	2.3	41.9	401	7.4
R3	1,080	844	-	147	84.4	176.8	1.3	38.3	392	4.2
R4	962	872	-	177	69.8	171	0.7	40.9	405	7.5
R5	962	890	-	175	93.3	173.3	0.9	29.1	413	4.5
R6	962	804	-	176	61	169.3	1.2	27.1	369	2.3

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				糖度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	27	-	12	39	47.3	13.2	20.3	38.3	1,267	11.0	248	1,526	12.2
H18	105	-	8	113	62.5	-	46.1	61.3	6,554	-	383	6,937	14.2
H19	66	1	28	95	94.5	40.4	49.4	80.7	6,225	21.0	1,400	7,646	15.1
H20	80	1	22	103	89.4	49.2	49.9	80.4	7,113	46.0	1,122	8,281	15.8
H21	80	1	25	106	87.2	37.8	50.9	78.1	6,971	48.0	1,267	8,286	14.7
H22	65	1	25	91	69.8	57.3	44.4	62.8	4,520	45.0	1,091	5,656	13.8
H23	51	-	6	57	34.5	-	26.8	33.7	1,750	-	149	1,899	13.9
H24	50	1	12	63	52	45.2	28.5	47.5	2,605	23.0	338	2,966	11.3
H25	60	-	5	65	50.7	23.6	36.2	49.5	3,018	2.0	196	3,216	14.3
H26	65	-	9	74	60.4	29.6	31.7	56.8	3,907	3.0	292	4,202	13.3
H27	71	-	6	77	74.9	29.4	39.8	72.1	5,318	14.0	225	5,557	14.1
H28	78	-	11	89	79.5	-	51.6	76.1	6,208	-	552	6,760	14.7
H29	59	1	18	78	72	20.6	30.5	61.8	4,234	14.0	559	4,807	13.2
H30	54	-	14	68	74.5	-	44	68.2	4,007	-	610	4,617	13.7
R元	48	-	24	72	82.4	-	48.8	71.4	3,982	-	1,154	5,136	15.0
R2	51	-	29	80	81.5	-	48.1	69.4	4,194	-	1,405	5,599	14.1
R3	51	-	29	80	81.5	-	50.9	70.2	4,135	-	1,512	5,647	16.0
R4	67	-	22	89	88	-	62	81.4	5,875	-	1,398	7,273	14.8
R5	61	-	26	87	78	-	46.3	68.6	4,816	-	1,200	6,016	16.0
R6	53	-	35	88	84.3	-	61.3	75.2	4,549	-	2,144	6,693	14.7

さとうきび関係事業の活用実績（R7年度～）

【国補正事業（生産対策）】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

【セーフティネット事業】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

【実証・研究事業（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	取組内容	総事業費	補助金	その他
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

【機械導入（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	導入機械	総事業費	補助金	その他
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

【市町村単独事業】

(千円)

事業年度	市町村名	事業名	取組内容	予算額	実績額
R7	伊江村	病虫害防除村負担金	薬剤費購入補助	2,000	2,000
R7	伊江村	農業共済費支援事業	収入保険掛け金補助（補助率：1/6）	1,561	-

(参考情報②)

【年齢階層別農家戸数】

	29歳以下	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上	合計
H17	1	9	42	74	71	197
H18	1	4	36	74	69	184
H19	-	5	28	82	82	197
H20	-	4	26	75	83	188
H21	-	5	18	63	86	172
H22	1	4	23	70	97	195
H23	1	1	22	61	90	175
H24	1	1	13	38	84	137
H25	1	9	42	74	71	197
H26	1	4	36	74	69	184
H27	0	0	16	50	101	167
H28	0	1	11	51	109	172
H29	2	1	11	38	113	165
H30	1	0	8	26	104	139
R元	2	1	7	23	101	134
R2	1	2	8	23	110	144
R3	1	3	10	23	106	143
R4	0	4	8	23	121	156
R5	0	4	9	17	121	151
R6	0	4	6	16	111	137

	100a未満	100~300a 未満	300~500a 未満	500a以上	合計
H17	111	6	-	-	117
H18	182	31	1	-	214
H19	173	24	1	-	198
H20	165	21	1	1	188
H21	179	26	1	-	206
H22	174	19	-	-	193
H23	155	5	-	-	160
H24	137	13	-	-	150
H25	146	14	-	-	160
H26	152	15	1	-	168
H27	148	18	1	-	167
H28	149	23	-	-	172
H29	146	19	-	-	165
H30	121	18	-	-	139
R元	117	17	-	-	134
R2	121	22	1	-	144
R3	121	22	-	-	143
R4	130	24	2	-	156
R5	137	13	1	-	151
R6	121	15	1	-	137

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	-	-	-	-
H18	-	-	-	-
H19	-	-	-	-
H20	-	-	-	-
H21	-	-	-	-
H22	-	-	-	-
H23	37.98	57	13.65	1.09
H24	59.38	67	11.14	0.37
H25	64.32	59	13.35	0.68
H26	84.04	72	12.68	0.6
H27	111.14	83	12.56	0.9
H28	135.2	98	13.29	1.6
H29	96.12	74	12.52	4.9
H30	92.34	77	11.82	6
R元	102.72	81	13.05	7.1
R2	112	89	12.89	6.8
R3	112.9	123	10.63	6.8
R4	145.4	136	11.16	6.9
R5	120.3	113	13.79	9.2
R6	133.9	128	12.50	11.9

(参考情報③)

【作業受託組織の状況】

	農作業受託組織数			農作業受託調整組織の有無と役割		
	合計	組織	個人	有無	名称	役割
R7	3	1	2	無	-	-

【作業委託料金】

作業名	料金	料金の設定方法及び島内の料金体系	備考
収穫	7500円/t	他産地を参考に生産組合と協議の上設定	集中脱葉処理含む JA伊江支店製糖工場が受託
植付	125円/坪	請け負う個人が設定	苗代込み 個人が受託
株出管理	設定無し	-	-
防除	設定無し	-	-
その他	設定無し	-	-

(参考情報④)

【畑地かんがいの整備状況】

	貯水施設		畑地かんがい 整備率	かん水方法			畑地かんがい整備の現状と 整備率向上に向けた今後の取組
				形態	使用料金	使用条件等	
R6	地下ダム	伊江地下ダム	65%	Ⅱ型・Ⅲ型	Ⅱ型 ・花卉作付畑 10a当り 3,000円/年度 ・その他作付畑 10a当り 500円/年度 Ⅲ型 300リットル⇒10円 3,000リットル⇒100円	-	使用する農家の要望を聞き取り、設 置に関する説明等を行いながら、整 備率の向上に図る。
	ダム	-				-	
	ため池	グスク溜池 他16か所				-	
	その他	-				-	

(参考情報⑤)

【共済加入目標】

	H26	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数(人)	143	137	135	135	130	125	115
加入戸数(戸)	121	52	60	65	70	70	80
戸数引受率(%)	84.6	37.9	44.4	48.1	53.8	56.0	69.6
対象面積(ha)	75	79	80	85	90	95	-
引受面積(ha)	64	32	40	50	60	70	-
面積引受率(%)	84.6	40.4	50	58.8	66.6	73.6	-
支払金額(千円)	63,239	2,499	-	-	-	-	-

【収入保険制度への加入目標】

	R元	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数	不明	20	22	23	24	30	40
加入戸数(戸)	7	14	16	18	20	26	35
引受面積(ha)	5.64	22.1	24	26	28	30	-
面積加入率(%)	7.8	17	18.4	20	21.5	23.1	-

(参考情報⑥)

【作型別割合】

	夏植	春植	株出し
H17	69.2%		30.8%
H18	92.9%		7.1%
H19	69.5%	1.1%	29.5%
H20	77.7%	1.0%	21.4%
H21	75.5%	0.9%	23.6%
H22	71.4%	1.1%	27.5%
H23	89.5%		10.5%
H24	79.4%	1.6%	19.0%
H25	92.3%		7.7%
H26	87.8%		12.2%
H27	92.2%		7.8%
H28	87.6%		12.4%
H29	75.6%	1.3%	23.1%
H30	79.4%		20.6%
R元	66.7%		33.3%
R2	63.8%		36.3%
R3	63.8%		36.3%
R4	75.3%		24.7%
R5	70.1%		29.9%
R6	60.2%		39.8%
R17(目標)			

【株出し回数別面積】

	株出し回数別面積 (ha)							平均回数
	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7以上	
H17	10	2	0	0	0	0	0	1.17
H18	7	1	0	0	0	0	0	1.13
H19	28	0	0	0	0	0	0	1.00
H20	18	4	0	0	0	0	0	1.18
H21	25	0	0	0	0	0	0	1.00
H22	24	1	0	0	0	0	0	1.04
H23	6	0	0	0	0	0	0	1.00
H24	11	0	0	0	0	0	0	1.00
H25	5	1	0	0	0	0	0	1.17
H26	8	0	1	0	0	0	0	1.22
H27	6	0	0	0	0	0	0	1.00
H28	10	1	0	0	0	0	0	1.09
H29	17	1	0	0	0	0	0	1.06
H30	12	2	0	0	0	0	0	1.14
R元	21	2	0	0	0	0	0	1.09
R2	26	3	0	0	0	0	0	1.10
R3	28	1	0	0	0	0	0	1.03
R4	18	4	0	0	0	0	0	1.18
R5	23	3	0	0	0	0	0	1.12
R6	27	7	1	0	0	0	0	1.26
R17	25	9	0	0	0	0	0	1.26

(参考情報⑦)

【近年の品種別収穫面積の推移】

作型	夏植						春植						株出し						合計					
	Ni22	NiH25	Ni27	KY 99-176	RK 97-14	その他	Ni22	NiH25	Ni27	KY 99-176	RK 97-14	その他	Ni22	NiH25	Ni27	KY 99-176	RK 97-14	その他	Ni22	NiH25	Ni27	KY 99-176	RK 97-14	その他
H17	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	40
H18	0	0	0	0	0	105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	113
H19	0	0	0	0	0	66	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	95
H20	0	0	0	0	0	80	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	103
H21	0	0	0	0	0	80	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	106
H22	0	0	0	0	0	65	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	91
H23	0	0	0	0	0	51	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	83
H24	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	63
H25	0	0	1	0	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	64
H26	0	4	8	0	0	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	4	8	0	0	62
H27	1	2	36	0	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	1	2	39	0	0	35
H28	0	7	48	0	0	23	0	0	1	0	0	0	0	1	6	0	0	4	0	8	55	0	0	27
H29	1	5	41	3	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	4	1	5	55	3	0	13
H30	1	1	40	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	2	1	1	52	6	0	8
R元	11	2	29	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	20	1	0	2	11	3	49	4	1	4
R2	13	5	29	1	1	2	0	0	0	0	0	0	7	1	18	1	1	1	20	6	47	2	2	3
R3	19	2	21	3	4	2	0	0	0	0	0	0	9	3	16	0	1	1	28	5	37	3	5	3
R4	37	3	21	2	2	2	0	0	0	0	0	0	9	2	9	1	1	1	46	5	30	3	3	3
R5	31	2	22	5	2	0	0	0	0	0	0	0	17	7	1	0	1	0	48	9	23	5	3	0
R6	32	2	13	5	1	1	0	0	0	0	0	0	19	1	12	2	1	0	51	3	25	7	2	1